

# 小学校家庭科における「パフォーマンス評価」導入の試み

山口佳代<sup>\*1</sup>・八幡(谷口)彩子<sup>\*2</sup>・廣瀬文子<sup>\*3</sup>

## Introducing Performance-Based Assessment at Japanese Elementary School Home Economics Classes: Trial Lessons

Kayo YAMAGUCHI, Ayako YAHATA-TANIGUCHI and Ayako HIROSE

### Abstract

Recently, "performance-based assessment" is remarkable as one of the methods to evaluate students' learning status of thinking, judgment, presentation, etc..

The objective of this paper is to introduce performance-based assessment into home economics classes on consumer life and behavior in Japanese elementary schools, and to examine the process of introducing performance-based assessment and the potentialities and/or actual tasks conducted in conjunction with it.

To achieve this objective, we gave lessons on consumer life and behavior to fifth grade students of Japanese elementary schools, introducing performance-based assessment with the last lesson. After these lessons, we analyzed and assessed students' descriptions.

The results were as follows: 1) We developed the task for "performance-based assessment" of buying a travel bag, a raincoat and a pair of working gloves, because these were necessary goods for students because of the training camp, a few months later. 2) We made the rubric for "performance-based assessment" on the viewpoint of the buying objective, the reasoning and the performance. 3) As the result that we analyzed student's descriptions and assess them according to the rubric, the assessment score sometimes varied among three scorers. 4) We could devise better teaching methods with reference to the results of "performance-based assessment."

**Key words:** performance-based assessment, home economics education, consumer life and behavior, rubric.

### 研究目的

現行学習指導要領(2008)への改善にあたっては、「生きる力」の理念の共有, 基礎的・基本的な知識・技能の習得, 思考力・判断力・表現力等の育成などの基本的な考え方が示された<sup>1)</sup>。とりわけ, 思考力・判断力・表現力等の育成にあたっては, 児童・生徒の思考・判断・表現の状況を見取る手段として言語活動の充実が目指されている。このような背景の下, 教科等において習得した基礎的・基本的な知識・技能の習得により, 実生活・実社会の中で活用可能な

思考力・判断力・表現力が身に付いたのかを判定する評価方法として, 「パフォーマンス評価」が注目されつつある。

「パフォーマンス評価」とは, 「知識を応用・活用・総合することを要求する「真正の課題」に挑戦させ, 実際の完成作品を生み出させたり, 実演を行わせることによって, 子どもたちの理解の様相を把握しようとする」評価方法である<sup>2)</sup>。「パフォーマンス評価」では, 「真正の課題」とされる「パフォーマンス課題」に児童が取り組んだ結果を, 評価指針である「ルーブリック」に従って評価が行われる。

これまで, 小学校家庭科では, 客観テストによって「家庭生活についての知識・理解」の状況を, 実技や作品によって「生活の技能」の状況を見取る評価が行われてきた。一方, 家庭科で習得した基礎的・基本的な知識・技能を家庭で実践することが目

\*1 熊本市立託麻北小学校  
(教育学研究科平成25年度修了生)

\*2 家政教育学科

\*3 附属小学校

指されてきたが、家庭実践については通常評価の対象とされない。家庭科における「パフォーマンス評価」導入の背景には、家庭実践を評価する代わりに、家庭科における学習のまとめとして、家庭に近い状況における課題（「真正の課題」）を準備し、その問題解決にあたった結果の分析を通して、基礎的・基本的な知識・技能を活用して「生活を創意工夫する」思考力・判断力・表現力の評価を行いたいという期待がある。

小学校家庭科における「パフォーマンス評価」に関する研究は緒についたばかりで、「パフォーマンス課題」をどのように作成し、「ルーブリック」を用いてどのように評価を行うのかなど、「パフォーマンス評価」の導入方法については、研究の蓄積が求められる。

そこで、本研究では、小学校家庭科の内容「D 身近な消費生活と環境」の学習事項「(1)物や金銭の使い方と買物 イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること」の授業における「パフォーマンス評価」導入の手順と可能性について検討する。この学習事項は、小学校家庭科で扱われる内容の中でも「思考力・判断力・表現力」を発揮して課題に関わる比重が高く、「パフォーマンス評価」の導入に適した学習題材であると考えた。

本研究の目的は、小学校家庭科の内容「D 身近な消費生活と環境」の学習事項「(1)物や金銭の使い方と買物 イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること」の授業に導入可能な「パフォーマンス課題」と「ルーブリック」を作成し、授業後に、児童の「パフォーマンス課題」に取り組んだ結果を「ルーブリック」に従って評価を行うまでの手順に実際に取り組み、「パフォーマンス評価」導入の可能性と課題について検討を行うことである。

## 研究方法

上記の研究目的を達成するために、以下の手順で研究を進めた。

- ①まず、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』<sup>3)</sup>を参考に、内容「D 身近な消費生活と環境」において児童に身に付けさせる思考力・判断力・表現力とはどのようなものなのかを把握する。
- ②①で把握した思考力・判断力・表現力を見取ることが可能で、児童の実態をふまえた「パフォーマンス課題」を作成する。
- ③②で作成した「パフォーマンス課題」に児童が取り組んだ結果から、児童の思考・判断・表現の状

況を評価するための評価指針となる「ルーブリック」を作成する。

- ④熊本市立託麻北小学校において、5年1組、5年2組、5年3組の計87人を対象に、内容「D 身近な消費生活と環境」の現地授業（6時間構成）を行う。その授業のまとめ（最終授業の6時間目）に「パフォーマンス課題」を導入し、児童に取り組んでもらう。現地授業を行った時期は、2013年6月11日～27日、授業者は山口である。
- ⑤「パフォーマンス課題」に取り組んだ児童のワークシートの記述を、「ルーブリック」に従って評価・分析する。
- ⑥⑤における評価・分析の結果をもとに、作成した「ルーブリック」の妥当性について検討を行い、修正すべき点があれば「ルーブリック」改訂版を作成する。
- ⑦改訂版「ルーブリック」を使い、児童の思考・判断・表現の状況について、再度評価・分析を行う。
- ⑧一連の検討結果を踏まえ、「パフォーマンス評価」導入の可能性と課題について検討する。

## 結果と考察

### 内容「D 身近な消費生活と環境」における思考力・判断力・表現力

『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』<sup>4)</sup>によれば、内容「D 身近な消費生活と環境」の学習事項「(1)物や金銭の使い方と買物 イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること」において児童に身に付けさせる思考力・判断力・表現力に関する評価の観点である「生活を創意工夫する能力」の「評価規準に盛り込むべき事項」として、「物や金銭の計画的な使い方と適切な買物について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている」とある。さらに「評価規準の設定例」としては、「購入しようとする物の品質や価格などの情報を活用し、目的に合った物の選び方や買い方について考えたり、自分なりに工夫したりしている」と記されている。そこで、こうした「生活を創意工夫する能力」を見取ることが可能な「パフォーマンス課題」と「ルーブリック」を作成することとした。

### 「パフォーマンス課題」の作成

「パフォーマンス課題」の作成の際は、児童の実態に合った課題の設定が重要である。

現地授業を行う託麻北小学校の5年生は、3学期に集団宿泊教室が行われることとなっており、集団

宿泊教室で使用する物を購入する必要がある。そこで、児童の実態に合い、自分の買物として現実的に考えることができる物の購入として、集団宿泊教室に必要な「旅行バッグ」「雨ガッパ」「軍手」の購入に関する「パフォーマンス課題」を作成した(表1)。

実際の授業では、3つの商品の実物をそれぞれ3種類ずつ準備し、児童が実際に手に取れるようにした。それらの商品の中から、予算5,000円以内で自分の必要な物を選んでいく。内容「D(1)身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること」の授業では、児童の家庭の状況や学校の近くに適当な店がない等の理由で、実際に店に出かけて買物をする授業を行うことは難しい。買物を疑似体験する「パフォーマンス課題」に取り組ませることで、児童の買物の際の思考力・判断力・表現力を見取りたいと考えた。

「ルーブリック」の作成と「パフォーマンス評価」の手順

前項での検討結果に基づき作成した「ルーブリック」を表2に示す。授業で児童に概念化させたい「必要性」「やりくり」「品質」とわかりやすく述べられているかという「表現力」の4つの観点について、理由づけに関する記述の有無を見取りながら点数化(2~0点)することにより児童の達成状況を把握できるものとした。

この「ルーブリック」を用いた評価方法については、「パフォーマンス評価」の手続き<sup>5)</sup>を参考に、以下の手順で行うこととした。

- ①ルーブリックをもとに、まず、2人の採点者(山口、八幡)で採点を行う。その際、評価の観点とスキル・レベルについて共通理解しておく。
- ②2人の採点者で採点結果が異なった場合は、3人目の採点者(廣瀬)が採点に加わる。

表1 「パフォーマンス課題」

金峰山の集団宿泊教室の準備をすることにしました。自分が持っていない物で、購入しなければならないのは旅行用バッグと雨ガッパと軍手です。下の物からそれぞれ選びましょう。そして、なぜその商品を購入したのか理由をそれぞれ書きましょう。予算は5,000円以内です。

旅行用バッグ	中型バック 3,500円	手さげバッグ 1,200円	大型バック 4,000円
雨ガッパ	上だけのカッパ 150円	上下に分かれているカッパ 500円	上下に分かれている丈夫なカッパ 1,300円
軍手	すべり止めつき軍手 200円	のびのび手袋 100円	5枚組軍手 250円

※買う物に○をつけましょう。

表2 最初に作成した「ルーブリック」

評価の観点	必要性・目的に応じた商品を選ぶことができる	予算に関する考えを持ち商品を選ぶことができる	品質を考えた商品を選ぶことができる	自分の考えをわかりやすく表現している
レベル	2 よくできる ・必要性、目的に応じた理由が適切に述べられている 目的に合っている物 大型バッグの購入	2 よくできる ・お金のことに関する理由付けができている	2 よくできる ・品質のことについてより具体的に述べている	2 よくできる ・わかりやすく書いている
	1 できる ・必要性、目的に関することが書いている	1 できる ・予算内である	1 できる ・品質のことにふれている	1 できる ・自分の言葉で書いている
	0 できない ・目的に合っていない 手提げバッグ、上だけカッパの購入	0 できない ・予算内でない	0 できない ・品質のことについて書いていない	0 できない ・無記入

※ 表の中の数字は点数

- ③ 3人の採点者の採点結果を一部ずつつきあわせ、得点を決める。
- ④ ③までの検討結果をふまえ、ルーブリックを修正・加筆し、完成させる。
- ⑤ 完成したルーブリックに従って採点結果を見直し、得点を決定する。
- ⑥ ルーブリックの説明や解答傾向の分析に役立つように、特徴的な採点事項を抽出する。

### ワークシートの分析

表3には、導入した「パフォーマンス課題」において、児童が選択した商品の組み合わせの状況を示している。これによると、ほとんどの児童が、5,000円の予算の範囲内で商品を組み合わせ選んでいる。

表4には、児童の実際の記述の一部を示している。これによると、児童1は、中型バッグを選んだ「必要性」に関する理由として「中型バッグは旅行にちょうどいい」「手提げバッグはちょっと小さい」「大型バッグはちょっと大きいと思った」、雨ガッパの「品質」については「上だけのカッパはちょっと弱そう」

などと判断している。評価点はそれぞれ2点とした。「やりくり」については、予算内で購入しており、選択理由として「一番安い」などと記述があるので評価点は2点とした。また、記述内容がわかりやすくまとめられているので「表現」の評価点は2点とした。

児童2は、「手提げバッグはポケットが色々な場所にある」「中型（バッグ）は絶対余る場所が出てくるしポケットが一つしかない」と「品質」と「必要性」について記述している。それぞれ評価点は2点とした。「やりくり」については、予算内で購入しているが記述はないので評価点は1点、「表現」についてはバッグだけしか記述がないので評価点は1点とした。

児童3は、「大型バッグは余裕で三日分入ると思う」「雨ガッパは上だけで十分」「手袋はひとつだけでいい」と「必要性」についての記述があり、「滑り止めがついている」と「品質」についての記述もあるので、ともに評価点は2点とした。「やりくり」については、予算内ではあるが記述がないので評価点

表3 「パフォーマンス課題」における児童の商品の選択状況

商品（値段）		5年1組	5年2組	5年3組	金額
		人数	人数	人数	
旅行バッグ	雨ガッパ				
	軍手				
	上だけのカッパ (150)				
大型バッグ (4000)	滑り止め付き (200)		1		4,350
	のびのび手袋 (100)	2		2	4,250
	5枚組軍手 (250)			1	4,400
	上下のカッパ (500)				4,700
	滑り止め付き (200)				4,600
	のびのび手袋 (100)	4	1	1	4,750
丈夫なカッパ (1300)	5枚組軍手 (250)		1	3	4,750
	滑り止め付き (200)	4	3		5,500
	のびのび手袋 (100)				5,400
中型バッグ (3500)	5枚組軍手 (250)				5,550
	上だけのカッパ (150)				3,850
	滑り止め付き (200)				3,750
	のびのび手袋 (100)	3		5	3,900
	5枚組軍手 (250)		1		3,900
	上下のカッパ (500)				4,200
	滑り止め付き (200)	3	5		4,200
	のびのび手袋 (100)	2	2	4	4,100
	5枚組軍手 (250)	4			4,250
	丈夫なカッパ (1300)				5,000
	滑り止め付き (200)	4	12	7	5,000
	のびのび手袋 (100)	2	1	3	4,900
5枚組軍手 (250)			1	5,050	
手提げバッグ (1200)	上だけのカッパ (150)				1,550
	滑り止め付き (200)				1,450
	のびのび手袋 (100)				1,600
	5枚組軍手 (250)				1,600
	上下のカッパ (500)				1,900
	滑り止め付き (200)				1,900
	のびのび手袋 (100)				1,800
	5枚組軍手 (250)		1		1,950
	丈夫なカッパ (1300)				2,700
滑り止め付き (200)				2,700	
のびのび手袋 (100)				2,600	
5枚組軍手 (250)				2,750	

表4 「パフォーマンス課題」における児童の記述の一部

	記 述 内 容 (「必要性」についての記述 「やりくり」についての記述 「品質」についての記述)
児童1	(選んだ物) 中型バッグ, 上下のカップ, 滑り止めつき軍手 中型バッグは旅行にちょうどいいぐらいかなと思った。なぜかというと <u>手提げバッグはちょっと小さい</u> と思ってやめて、 <u>大型バッグはちょっと大きい</u> と思ったから。 雨ガッパは上下に分かれているカップにした。最初は上だけのカップにしようと思ったけど、 <u>ちょっと弱そうだったから上下分かれているカップにした</u> 。 軍手は <u>のびのび手袋</u> にした。理由は <u>一番安い</u> し、丈夫だったから。 (評価の段階) 必要性: 2 やりくり: 2 品質: 2 表現: 2
児童2	(選んだ物) 手提げバッグ, 上下のカップ, 5枚組手袋 手提げバッグは <u>ポケットが色々な場所にあるし</u> , 中型は <u>絶対余る場所が出て来るしポケットが一つしかない</u> ので。 (評価の段階) 必要性: 2 やりくり: 1 品質: 2 表現: 1
児童3	(選んだ物) 大型バッグ, 上だけのカップ, のびのび手袋 大型バッグだと <u>余裕で三日分入る</u> と思うから大型バッグがいい。 上だけのカップは別に下のズボンはいらないし、 <u>上だけで十分だから上だけのカップでいい</u> 。 手袋は一つだけでいいし、ちゃんと <u>滑り止めがついている</u> のでのびのび手袋にした。 (評価の段階) 必要性: 2 やりくり: 1 品質: 2 表現: 2

は1点とした。

作業を進めるうちに、児童の記述から「2よくできる」「1できる」「0できない」の判定をする具体的な基準が必要であることに気がついた。そこで観点ごとに「2よくできる」に当てはまると判断した記述例を集約した。表5に「予算」の観点で「2よくできる」と評価した記述を示している。さらに、「自分の考えをわかりやすく表現している」かどうかに関しては、何をもち「わかりやすい」と判断するのか、一人の採点者だけでは判断しにくいことがわかった。

評価を進めるにつれて、授業者と児童との現状認識の違いが明らかになった。例えば、集団宿泊教室の荷物を入れるバッグとして、1月に実施されるためかさばる衣服が多い上に、2泊3日の山登りを含む訓練のため入浴道具や着替え等の大量の荷物となるため、授業者は大型の旅行バッグが最もふさわしいと考えた。ところが、児童が選択したのは、中型バッグが最も多かった。集団宿泊教室に持参する荷物の量をきちんと把握していなかったため、こうした結果が生じたと考える。

### 「ルーブリック」の再検討

上記のワークシートの分析結果をふまえて、「ルーブリック」の妥当性について検討した。授業前には、

「品質」「やりくり」「品質」という観点から思考・判断が行われているのを見取る「ルーブリック」を作成したが、自由記述方式では、児童がこれら全ての観点についてきちんと記述を行うとは限らない。また、記述していないからといって、そうした観点に立った思考・判断が行われていないと評価することは、かえって児童の学力を正確に見取ることにはならないのではないかと考えた。そこで、商品の使用目的に関する記述に注目して児童の記述を評価・分析することにした。

その結果、バッグの選択理由については、バッグの容量に関する記述が一番多く、ついで品質や価格となっていた。雨ガッパの選択理由は、ぬれないことや丈夫さ(品質)、価格に関する記述が多かった。軍手の選択理由については、品質や必要性、価格等多岐にわたる記述がみられた。

これらの状況をふまえて「ルーブリック」を改訂した(表6)。

### 「ルーブリック」改訂版での評価・分析

「ルーブリック」改訂版を使って、山口と八幡の2人の採点者により再度児童の記述を評価・分析した。採点にあたり、「ルーブリック」の各観点とスキル・レベルについて数回にわたって話し合い、共通理解を形成した。話し合いの中で、「軍手」については、

表5 それぞれの観点で「よくできる」にあてはまると判断した記述例  
(評価基準)「予算に応じた考えを持ち商品を選ぶことができる」に関する主な記述例

<p>(旅行バッグ)</p> <p>商品が高くてたくさん入るし、高くていい物を買って長く使えた方がお得だから、大型バッグは値段が高い。大型バッグは予算以上。大型と中型は 500 円違いなだけだから大型にした。大型と中型はあまり変わらない値段だから、中型の方が少し安い。大型は高い。ちょうどいい大きさで大型バッグより安いから。</p>
<p>(雨ガッパ)</p> <p>丈夫なカッパは 1,300 円で高いから、もし雨が降らなかったら丈夫なカッパはもったいない。上下に分かれているのは安い。雨が降るかわからないから間をとった。丈夫なカッパだったらお金がかかる。雨が降るかわからないから安いのでいい。お金が足りないで上下のにした。上下は値段がちょうどよかった。丈夫なのは高い。上下のカッパが節約できる。上下に分かれているのも丈夫なものあまり品質は変わらないから。安い方の上下にした。丈夫なカッパは丈夫だけど高いから上下のカッパにした。ぬれない程度の安いものを求めているので上下のにした。</p>
<p>(軍手)</p> <p>一番安い。予算とぴったり。5 枚組はお得。5 枚で 250 円は高いから。のびのび手袋は安い。5 枚組は買えない。</p>
<p>(その他)</p> <p>この全てで 4200 円 (予算内)。ちょうど 5000 円でお得。のびのびは安い。全部に滑り止めがついているなら安いしのびのびがいい。</p>

表6 「ルーブリック」改訂版

	目的が適切に把握できているかどうか。(知識・理解)	目的に合う品物が理由付けと共に選んでいるか。(思考・判断)	自分の考えをわかりやすく表現しているか。(表現)
2点できる	バック＝バッグの中に入れる荷物の分量がわかっている。 雨ガッパ＝ぬれないこと。 軍手は判定しない。	自分が考える、目的と理由付けがきちんと合っている	わかりやすく書いている。
1点できない	バッグ＝バッグの中に入れる荷物の分量がわかってない。 雨ガッパ＝ぬれないことを考えていない。	自分が考える、目的と理由付けがちぐはぐ	自分の言葉で書いている。
0点記述なし	目的について記述してない。	記述なし。	わからない。記述なし。

選択目的としてさまざまなものが挙げられることから、何を軍手の「目的」とするのかを判定することが難しかったため、「軍手」の「目的」については採点から除外した。

共通理解の後、児童ひとりひとりの記述をもとに、評価作業を進めた。2人の採点結果が異なる場合、3人目の採点者廣瀬が評価・分析に加わった。こうした作業の後、3人の採点者の評価結果を児童1人

ずつつきあわせて、各児童の評価点を決めていった。採点者で評価結果が異なる場合は、3人のうち2人が一致した評価結果を採用するようにした。

「パフォーマンス評価」の手順では、この採点結果をふまえて「ルーブリック」を修正することになっているが、今回は「ルーブリック」改訂版によって十分対応が可能であったため、新たな修正は行わなかった。

## 児童の記述を採点者がどのように判断するかによる評価結果の違い

「ループリック」による評価の際、採点者がどのように判断するかによって評価結果に違いが生じる場合がある。表7には「旅行バッグ」、表8には「雨ガッパ」における記述について、3人の採点者で評価結果が一致しなかった例を示している。

表7によれば、児童の「旅行バッグ」の「大きい」という記述を、バッグの容量に関する記述なのか、バッグそのものの大きさととらえるかで採点者の評価が分かれた例である。採点者Aと採点者Cは容量と判断（容量という目的に関する記述はあるが把握しにくいので評価点は1点）、採点者Bは児童の記述を容量ではなく大きさと判断（容量に関する記述がないため、評価点は0点）している。また、目的と理由付けに関して、採点者Bは、バッグはあまり大きくなくていいから中型にしたととらえ、自分なりの理由付けができていないと判断しているが、採点者Aと採点者Cは、容量が大きくなって邪魔だからという書き方の意味が分からないと判断して評価点は1点としている。

表8の「雨ガッパ」については、その目的はぬれないことであるから、採点者BとCは、ぬれないためにはちょうどいい長さにとらえ、評価点は2点としている。一方、採点者Aは、「ちょうどいい」という記述をぬれないことと関連した記述ではないと判断しているため、評価点は「記述なし」の0点としている。

このように児童の記述からその真意の読み取りが難しい場合があり、採点者によって判断が異なることもある。本研究では3人の採点者で評価を行うこ

表7 「旅行バッグ」の選択理由に関する児童の記述内容と3人の採点者の採点結果

記述内容	採点者	目的	自分なりの目的と理由付け	表現
バッグはそんなに大きくなくても邪魔だから中型にした。	A	1	1	1
	B	0	2	2
	C	1	1	1

表8 「雨ガッパ」の選択理由に関する児童の記述内容と3人の採点者の採点結果

記述内容	採点者	目的	自分なりの目的と理由付け	表現
結構長いから丁度いいんじゃないかと思った。	A	0	2	1
	B	2	2	2
	C	2	2	2

とにより、少なくとも2人の採点者の評価結果が合致したものをより妥当性のある評価として採用した。

## 「ループリック」改訂版による評価結果の分布

「ループリック」改訂版による評価結果(得点分布)を表9に示した。

「旅行バッグ」の「目的」については、学年全体で「理解できていない(1)」が48人であったのに対し、「理解できている(2)」は21人と少なかった。これは、集団宿泊教室に持っていく荷物の量を児童が正確に把握していなかったことから、目的からずれた記述が多く見られたためである。一方、「理由付け」と「表現」については、いずれも「できている(2)」の割合が7割と達成度が高かった。

「雨ガッパ」については、「目的」に関する記述を行っていない児童が多かった。これは、「雨ガッパ」の目的を「雨にぬれないこと」ではなく、「破れにくい」などの品質に関する理由付けを行った児童が多かったためである。

「軍手」については、多くの児童が目的に合う品物を理由付けとともに選んでいた。

「表現」については、全ての品物について、「わかりやすく述べられていた(2)」割合が高かった。これは、各商品の実物を提示し、児童が実際に手に取って購入する場面を設定したことで、具体的に考えることができ、その結果、自分の考えをわかりやすく表現できたのではないかと考える。

## 予算が足りなくて買物を制限した児童の分析

表10には、5,000円という予算におさまらなかったため、自分の選択したかった物を買えなかった児童の購入理由である。「大型バッグ」が4,000円、「丈夫なカップ」が1,300円でこの2つを買うと予算をオーバーしてしまうので、この2つの商品は同時には買えない。また、「中型バッグ」3,500円と「丈夫なカップ」1,300円を買い、さらに5枚組軍手250円を買えば、合計で5,050円になってしまい、この組み合わせでは買えない。こうした理由から本当に買いたかった物を我慢したという児童がいた。それぞれの商品購入の理由として適切な記述がなされていても、予算の制約から商品の選択に妥協が生じていた。

## まとめ

本研究では、実地授業にあたって、児童が2泊3日の集団宿泊訓練に必要な荷物の量が実感をもって把握できていなかったことなどの課題が明らかになった。児童の現状認識をふまえたわかりやすい

表9 「ルーブリック」改訂版による評価結果の分布 (N=84)

評価の観点 評価点	目的				理由付け				表現				
	2	1	0	平均点	2	1	0	平均点	2	1	0	平均点	
旅行バッグ	1組	9	14	5	1.14	22	3	3	1.68	21	7	0	1.75
	2組	3	20	5	0.93	18	7	3	1.54	15	12	1	1.5
	3組	9	14	5	1.14	25	2	1	1.84	16	11	1	1.54
	合計	21	48	15	1.07	65	12	7	1.69	52	30	2	1.6
	%	25	57.1	17.5		77.4	14.3	8.3		61.9	35.7	2.4	
雨ガッパ	1組	7	1	20	0.53	12	6	10	1.07	13	11	4	1.32
	2組	5	0	21	0.38	5	2	19	0.46	13	11	2	1.42
	3組	8	1	18	0.63	8	2	17	0.67	13	13	1	1.44
	合計	20	2	59	0.52	25	10	46	0.74	39	35	7	1.4
	%	23.8	2.4	70.2		29.8	11.9	54.8		46.4	41.7	8.3	
軍手	1組					28	0	0	2.0	23	5	0	1.82
	2組					25	2	0	1.93	16	10	1	1.56
	3組					25	1	0	1.96	13	12	1	1.46
	合計					78	3	0	1.96	52	27	2	1.62
	%					92.9	3.6	0		61.9	32.1	2.4	

注 評価点：2 できている 1 できていない 0 記述なし

表10 予算が足りなくて買い物を制限した児童の記述内容 (一部)

児童A：上下の丈夫なカッパを買いたかったけど、予算内で買えないので上下のカッパにした。

選んだ商品	金額	記述内容
大型バッグ	4,000円	大型バッグはいっぱい入るから。
上下のカッパ	500円	カッパは1,300円のは高いから上下に分かれているのにした。
すべり止め付き軍手	200円	すべり止め付き軍手は大人になっても使えそうだったから。

児童B：予算が足りなくて、5枚組軍手を買えなかった。

選んだ商品	金額	記述内容
中型バッグ	3,500円	大型バッグは大きすぎるし、手提げバッグは小さすぎる。
丈夫なカッパ	1,300円	カッパはもしも雨が降った時、大丈夫なように。
すべり止め付き軍手	200円	5枚組軍手は買えないし、のびのび手袋はやぶけそう。

「パフォーマンス課題」を提示することが大切だと考える。また、本研究で開発した「パフォーマンス課題」では、商品の購入に予算を設定したが、予算を設定することで児童の思考を制限することになる場合もあると思われた。

本研究において、実践・体験型の「パフォーマンス課題」を設定したことで、児童はとても意欲的に「パフォーマンス課題」に取り組み、客観テストだけでは採点できない児童の思考力・判断力・表現力を見取ることができたと考える。小学校家庭科では、家庭での実践力を評価することができないなどの課題を抱える中、「パフォーマンス評価」の導入は、児童の「生活を創意工夫する能力」としての思考力・判断力・表現力を高め、その状況を見取るための方法になり得ると考える。そのための評価指針となる「ルーブリック」の作成にあたっては、今回かなりの労力を必要とした。明確で一貫性があり、しかも簡単な「ルーブリック」作成の手順については今後も

検討を重ねていきたい。

最後に、実地授業ならびに「パフォーマンス評価」の取組にご協力いただいた熊本市立託麻北小学校第5学年（平成25年度）の児童ならびに先生方に深謝申し上げます。

## 注

- 1) 文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社, pp.1-2
- 2) 田中耕治(2008)『教育評価』岩波書店, p.149
- 3) 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2011)『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 家庭】』教育出版, pp.31-32
- 4) 同上
- 5) 松下佳代(2011)『パフォーマンス評価』日本標準, p.27